

こちらは数ページのお試し読み版です。



企業のWeb担当者が最初に知っておきたいシリーズ

**Webデザインの基礎を学ぶ**

本資料はセミナー講演資料を基に作成しております。  
資料内にある枠内の文字は、講演者の声を文字に書き起こしたものです。

# 私をご説明します



## 杉浦 光

株式会社メンバーズ Webデザイナー、アートディレクター  
デザイン歴約20年

中小Web制作会社、フリーランスを経て2008年にメンバーズ入社  
企業のWebデザイン／コーディング多数

趣味は自転車、写真（カメラ）

# 今日お話しすること

本資料では、1つめに、ワイヤーフレームを軸に、デザイナー視点での制作現場のコミュニケーションについてお話しします。Webサイトを作る際には、制作者同士のコミュニケーションが発生します。ここがうまくいかないと、Webサイトも良いものができません。

2つめは「ユーザーに伝えるデザイン思考」です。

「デザイン」というと、カッコいいグラフィックとかファッションをイメージされる方もいるかもしれませんが、「デザインなんて専門外」と思われるかもしれませんが、それはデザインのほんの一面です。デザイン思考で、みなさま自身が関わっているWebサイトを見直す機会になればと思います。

1

デザイナーに伝える  
現場のコミュニケーション

2

ユーザーに伝える  
デザイン思考

まず、デザイナーに伝える、現場のコミュニケーションです。

1

デザイナーに伝える  
現場のコミュニケーション

2

ユーザーに伝える  
デザイン思考

# ページ制作と家を建てること

本題に入る前に、私がいつも思っている事をお話します。  
「ページの制作」と「家を建てる」ことは似ていると思ってます。

家を建てるには.....まず最初に依頼する人がいて、

つぎに現場監督的な人がいて、デザインや設計をする建築家がいる、  
実際に家をたてる大工さんがいます。

ページを作るのも、同じようなメンバー構成になっています。

ここではページ制作を、家を建てることに例えたりしながら、お話しさせていただきます。



# 今日の登場人物

ページ制作と、その前段階であるワイヤーフレーム制作に関わる人は、こちらのメンバーになります。

左から

クライアント：ページの制作を依頼する人です。

ディレクター：制作の現場監督で、ワイヤーフレームも書きます。

デザイナー：ページのデザインをする人です。

コーダー：HTMLを書いて、実際のページを作る人です。

動画を見ている方は、自分自身が誰の立場なのか、置き換えていただければと思います。



クライアント  
(コンテンツ・オーナー)



ディレクター



デザイナー



コーダー  
(エンジニア)

# 「ワイヤーフレーム」と「コンテンツ仕様書」

ここまで何度か出てきている「ワイヤーフレーム」という言葉について補足します。

似たようなものに「コンテンツ仕様書」があります。違いは为什么呢。

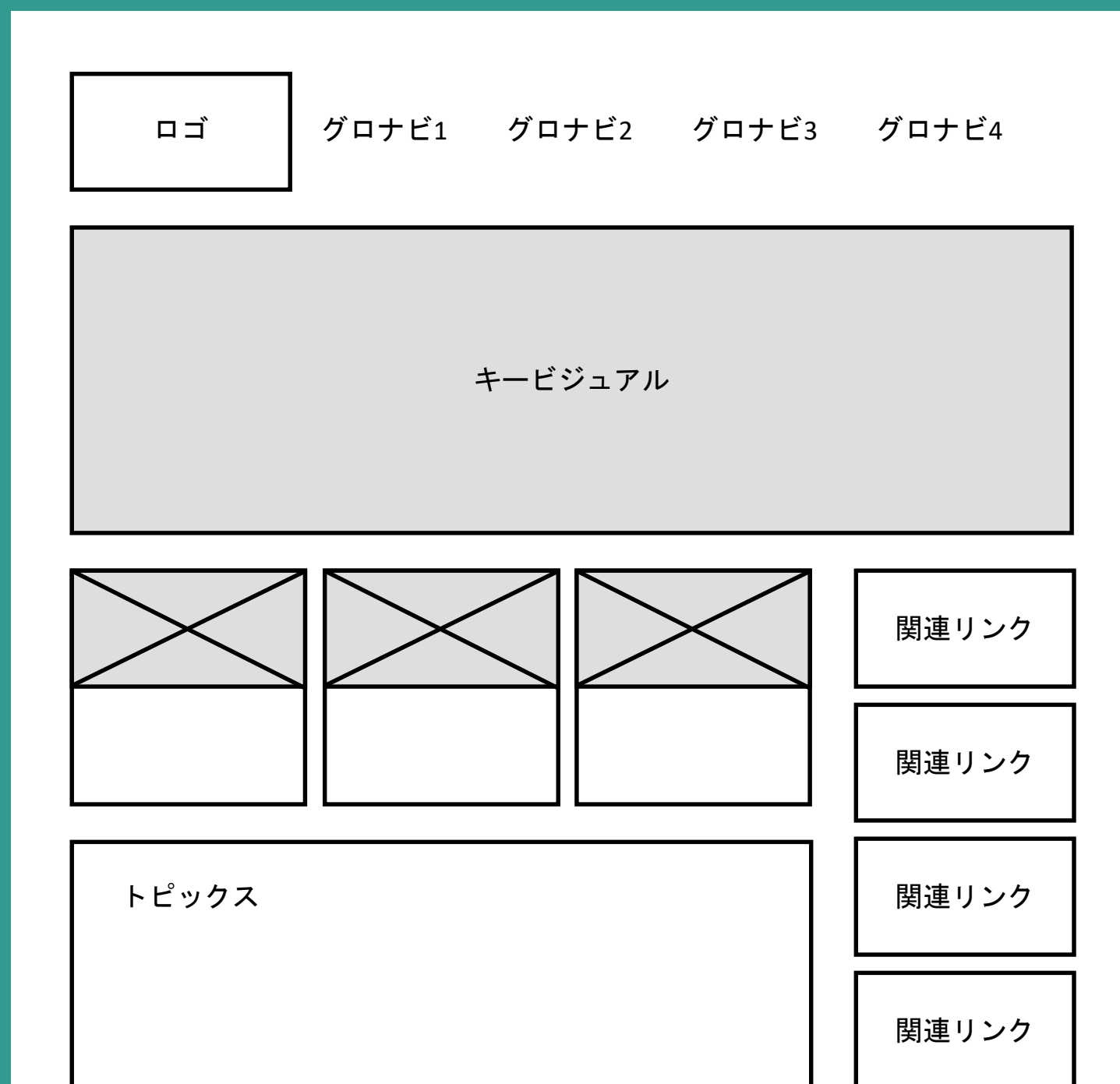
「ワイヤーフレーム」は制作の初期段階で、構成要素を確認をするためのものであり、コンテンツの中身（仕様）はありません。

対して「コンテンツ仕様書」は

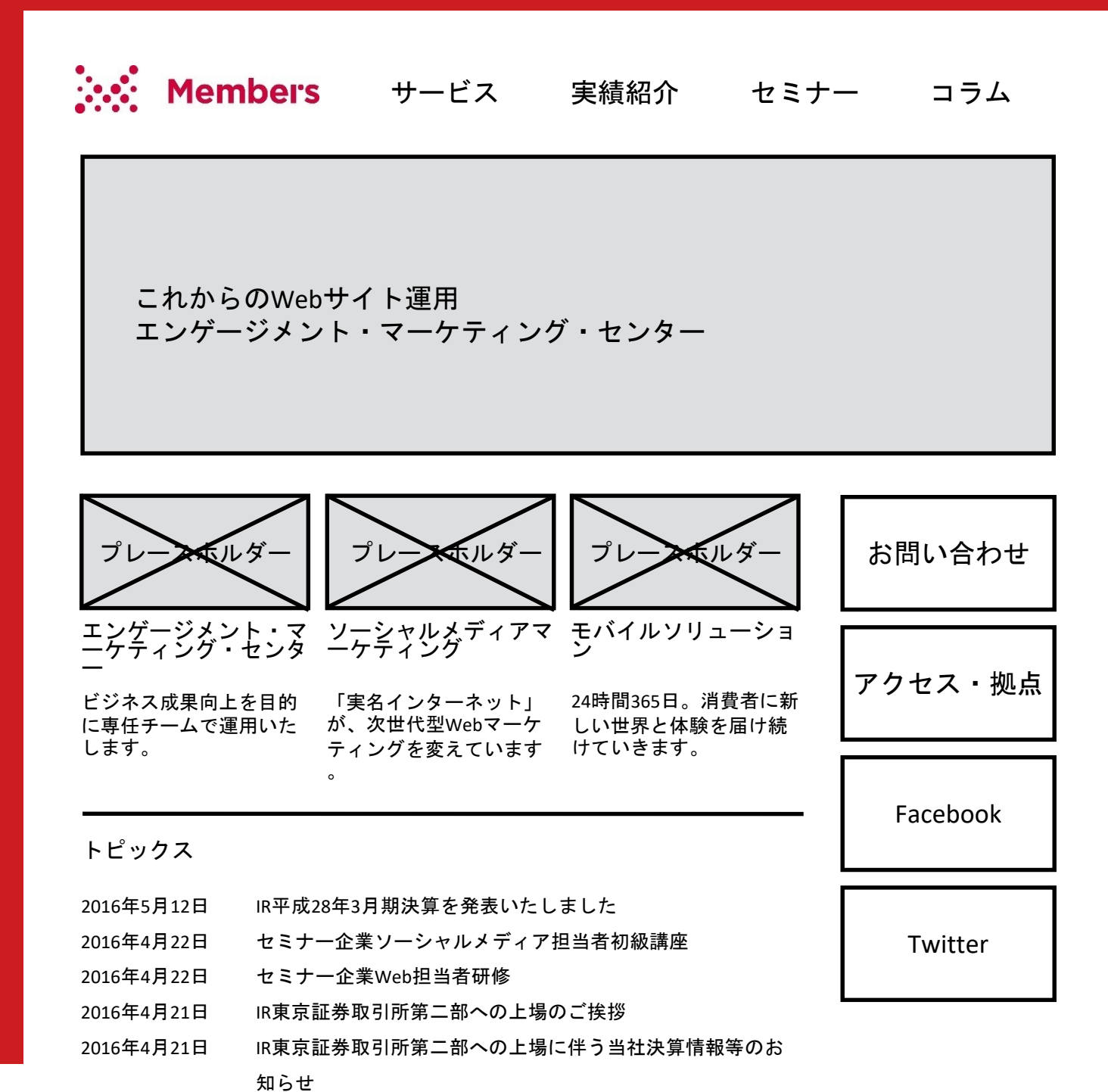
文言などが、仮のものではなく正式なものとなり、

デザイナーやコーダーなどの制作者にとっては、そのまま文言をコピーして使えるレベルまで落としこまれたものです。

## ワイヤーフレーム



## コンテンツ仕様書





最後までご覧いただき、ありがとうございました。

株式会社メンバーズ

<https://www.members.co.jp/>